

会議開催結果の概要

会議の名称	第5次大分市国際化推進計画策定委員会 第1回策定委員会
会議の開催日時	令和5年8月25日(金) 9時45分～11時
会議の開催場所	大分市役所第2庁舎6階 大研修室
会議の公開または非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
出席委員	(委員長)下田 憲雄 (副委員長)馬場 啓爾、 (委員)伊藤 精、石丸 直子、板井 恭子、太神 みどり、 オースティン・ヴォーン、吉良 昌昭、三好 正昭、高田 隆秀 以上10名
会議の議題	議事1 会議の公開・非公開の取り扱い 議事2 策定委員会のスケジュールについて 議事3 大分市の国際化の現状及び第4次計画の取り組み状況について 議事4 第5次計画の策定について 議事5 大分市の国際化推進に関するアンケート調査について 議事6 その他

第1回策定委員会

開 会

1. 策定委員自己紹介
2. 事務局紹介
3. 委員長・副委員長の選出
 - 委員長: 下田 憲雄 委員 大分大学国際教育推進センター長
 - 副委員長: 馬場 啓爾 委員 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)大分貿易情報センター所長
4. 委員長あいさつ

にそれぞれ決定

<議事1: 会議の公開・非公開の取り扱い>

- 原則公開に決定。

<議事2: 策定委員会のスケジュールについて>

- 事務局から策定委員会の今後のスケジュールについて説明
- 質疑応答
 - ・ 特になし

<議事3: 大分市の国際化の現状及び第4次計画の取り組み状況について>

- 事務局から大分市の外国籍市民の現状および国や県の動向について説明
- 質疑応答
 - ・ 特になし
- 事務局から国際課が実施している事業について説明

【質疑応答】

委員	3つの姉妹友好都市に大分市職員を派遣している状況について教えてもらいたい
事務局	姉妹友好都市への職員派遣状況については、武漢市とオースチン市に語学留学としてそれぞれ派遣している。武漢市については、現在、派遣を中止しているが、オースチン市については1名を派遣中である。
委員	大分市武漢事務所には、どのような団体の中に事務所が入っているのか。また、スタッフは大分市職員なのか。
事務局	武漢事務所については、武漢市にある武漢市国際交流サービスセンター有限公司に業務委託をしている。国際交流サービスセンターは、国際交流や武漢市のパスポート業務、武漢市職員が海外に出張する際の手続き等を行っ

	ている団体である。事務所のスタッフは、国際交流サービスセンター有限公司の職員が大分市武漢事務所の業務を行っており、国際交流サービスセンター有限公司の一部門として大分市武漢事務所というセクションがある。
委員	通訳業務について、基本的に職員が通訳を行っていて、それ以外に多言語通訳サービスで対応しているとのことだが使い分け方法はどうか。
事務局	職員の通訳対応については、窓口や訪問で日本語が話せない外国人に対応する場合に職員が同行して通訳している。通訳の連続性ということを考えると、基本的には職員が通訳したほうがよいと考えているが、職員では対応できない言語の場合には「多言語映像通訳サービス」を利用して通訳している。
委員	説明資料の英語表記のところに homepage とあるが、website と表現すべきである。

■ 事務局から第4次計画の概要及び取組状況について説明

- (1) 第4次計画の位置づけ、概要
- (2) 第4次計画の施策・目標(主な取組状況)
- (3) 第4次計画の数値目標

【質疑応答】

委員	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標設定時点と実績に違いがある部分があると思う。例えば、施策2の「姉妹友好都市をはじめとした海外都市との交流件数」については、目標達成のために何か、市としてペースアップするために実施しようといった動きはあるのか。
事務局	コロナ禍においても、何かできることをということで、武漢市やフィジーの中学生との交流をオンラインで実施している。今年度は、引き続き、オンラインでの交流に加え、中国との人的交流も徐々に再開してきており、武漢市からの修学旅行団が7月に来市し、野津原中学校で交流を行っている。また、武漢市側から新たな交流の打診も受けており、交流は徐々に増えていくと考えている。
委員	今後も、状況が変わることがあると思うので、目標に近づけることができるように、何か今できることを追加できるような仕組みの方が、最後に説明しやすいと思う。
委員	施策5の国際協力啓発月間について、啓発月間だからこれをやると銘打っているようなイベントはあるのか。また、カウントはどう数えるのか。

事務局	国際協力啓発月間の枠組みは主に 3 つある。1 つ目は「おおいたワールドフェスタ」で、祝祭の広場を会場に、ステージイベントやブース出展などを行うものである。2 つ目は、国際協力に関するパネル展示の実施で、ホルトホールのエントランスホールに各団体の活動が分かるような資料を展示し、入場者の皆さんに見てもらった内容になっている。3 つ目が、各団体が啓発月間の枠組みに入って実施するセミナーなどのイベントになっている。カウント方法は、それぞれの入場者数を積み上げたものとなる。
委員	実際によく数えてみたら目標値の積み上げ方が正確でなかったということですが、目標設定項目について、何を数えるのか線引きし、今回の目標設定の参考にできるとよいと思う。
委員	4 次計画の進捗については、5 次計画を策定するときに、何を目標とし、その達成度を見ていくかというところで関わってくるので、確認が必要である。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等を開催できない状況が続いていた。第 4 次計画の目標値を設定した時には達成可能だと考えていたと思うので、頑張っていたきたい。

<議事4: 第5次計画の策定について>

■ 事務局から第 5 次大分市国際化推進計画の概要について説明

- (1) 策定の趣旨
- (2) 計画の位置づけ
- (3) 計画の期間
- (4) 計画策定の体制

【質疑応答】

委員	大分市の全人口に対する外国人人口の比率が、全国平均が 2.3%に対して、大分市が 0.8%という状況は、定着率があまり良くないのではないかという印象がある。今年度末くらいまでに、法律の大枠の見直しがあると思われるが、国としても現状の 2.3%を先進国の外国人比率 12%くらいまでは持っていきたい意向を持っていると思う。定着するための施策を 5 次計画に盛り込んだらどうかと思う。地域住民との交流や、子どもを含む外国人の日本語教育の環境など、様々な地域に溶けこんでいくような施策を盛り込むことができれば、外国人住民も暮らしやすくなり、増えていくのではないかという感想をもった。
事務局	大分市の在住外国人数が 7 月末現在 3,987 人で過去最高となっている。現在、国の方でも技能実習制度の見直しや特定技能の拡大等を検討しており、今後、特定技能 2 号になれば家族帯同も認められ、益々外国人の方が増えることが予想される。ご意見のように、外国人の方が大分に来てスムーズに

	生活できるように、まず日本語教育の支援、それと地域住民との交流といったものが大事だと考えているので、第5次計画に盛り込むことができたかと考えている。
委員	第5次推進計画を考えるにあたっては、大分市総合計画の中に掲げられている基本方針の2項目は、このまま変わらないのか。
事務局	同時期に総合計画の見直しがあり、新しい総合計画も同じ令和7年度からの計画となる予定である。同時に2つの計画を策定していくこととなるため、適宜情報共有をしながら、総合計画と国際化推進計画がしっかりつながる形にしていきたいと考えている。
委員	総合計画の基本方針に合わせて国際化推進計画の方針やテーマなどをリンクしていく必要があると思うので、適宜報告をしてほしい。
委員	第5次計画には、基本的には総合計画の下位計画で総合計画にないことは書けないので、整合性を図っていただきたいと思う。

<議事5:大分市の国際化推進に関するアンケート調査について>

■ 事務局から大分市の国際化推進に関するアンケート調査について実施時期・方法・質問内容について説明

- (1) 外国籍市民へのアンケート
- (2) 中小企業へのアンケート
- (3) 一般市民へのアンケート

【質疑応答】

委員	外国籍市民へのアンケートについて、対応できる言語の質問の趣旨としては、どのような言語でチラシ等を準備すればよいかという観点だと思う。そのため、外国人が使うことができる言語を調べるとのことだと思うが、なぜ、スペイン語とポルトガル語が入っているのか。
事務局	大分市に住んでいる外国人が使用している言語は、国籍でおおよその言語は把握できると考えている。それに加えて第2言語を把握したいため、第2言語で世界的に広く使われている言語を選択肢として設定している。
委員	複数回答できるので、母国語も含めて分かる言語、話すことができる言語はどれですかと聞けばよいと思う。
事務局	この設問の主旨は、大分市が外国人に向けて情報を届けるために、どの言

	<p>語で発信したら有効なのかというニーズを把握するためである。アンケート調査の内容を十分に精査できていない部分もあるので、いただいたご意見を参考に再検討させていただきたい。</p>
委員	<p>先日、ソウルに行ったときは中国語と日本語、韓国語のアナウンスがあった。通訳等の多言語対応は行っているが、例えばバスに掲示するときなど、10 も 20 も多言語で掲示できるわけではないので、どの言語で発信するか絞り込むことが求められる。</p> <p>そうした観点で聞いた方が良いと思うので、韓国語は選択肢にあった方がよいと思った。英語ができない外国人も多くいるため、どの言語をどこまでカバーしておけばよいか、例えば、大分市にいる外国人の内の 8 割から 9 割はカバーできる、そういう意図で言語を選ぶとよい。</p>
委員	<p>「日常生活での困りごとを教えてください」と聞くのはすごく大事だと思うが、困っていること以外に、前回の留学生調査にあるように「必要な生活情報を何で知りますか」、「欲しい情報は何ですか」という設問を整理して、「困っていること」プラス「何が必要か」、「何が欲しいと思うか」を聞き取れるとよい。また、専門学校生も対象に含まれるか。</p>
事務局	<p>前回の第 4 次計画の時には学生だけに対して調査したのですが、今回は外国籍市民で 18 歳以上の人を対象にするので、専門学校生にも調査を行う。「どのような情報が欲しいか」については、項目に入れられないか検討したいと思う。情報の入手方法については、新型コロナウイルス感染症ワクチンなどを例に、重要な情報をどのように得ているかということで、質問を設定している。</p>
委員	<p>外国人は他の外国人と話したり、一緒に生活することが一般的だが、それについて「何か日本人との交流がありますか、外国人と話すことが多いですか」という質問があった方がよいと思う。</p>
事務局	<p>日本人とのコミュニケーションの機会があるかどうかということですね。</p>
委員	<p>日本人と交流があるかという質問が良いと思う。外国人の中には、日本人の友達がいなくて、英語しか話せない人の輪から出ない人もいる。</p>
事務局	<p>その質問をどう入れるかということを検討していきたい。</p>
委員	<p>大事な指摘だと思う。学生だけではなく、この質問を外国籍の方全体に聞くと、労働者の方たちが孤立していないかということも把握できるようになる。どういうグループに入っているか、全く入っていないとか、そういうところも確認できると思う。</p>

委員	全体的なアンケートになっているので、在留資格ごとにアンケートを工夫したらよい。最近では、技能実習生にしても特定技能にしても、3年とか5年で帰りたいという人が、理由は分からないが増えている。そういったことも個別の在留資格ごとのアンケートを取ることで、把握することができる。
事務局	例えば、在留資格と「これからも住み続けたいか」ということをクロス集計で、答えを出していくということもできるし、「この資格の人はお答えください」というような質問を作って、個別に聞くことも可能なため、検討していきたいと思う。
委員	質問数が多いと回答数が急激に減ることになるが、質問数はどれくらいを予定してるか。
事務局	QRコードを使ってオンラインで回答してもらうため、3分から5分程度で答えられるくらいにできたらと考えている。
委員	そうすると、10問以下になるかと思う。それ以上時間がかかると回答を送ってくれない可能性が一気に高くなる。そのため、質問内容を精選する必要があるということと、クロス集計ができるような質問設定をしておくことが必要である。各委員から上がっている意見を踏まえ、組み換えなども考えていただければと思う。
委員	外国人の雇用に関する質問は、商工労政課が行っている勤労者実態調査を活用するというところでよいか。
事務局	そのように考えている。
委員	庁内にある使えるアンケートは、次回の委員会で提示してもらいたい。

<議事6:その他>

■ 事務局から第2回策定委員会の開催について説明

閉会